

【東日本大震災の被災地見学】

釜石市から大槌町を通り、山田町までの被災地をバスで回りました。至る所に「過去の津波浸水区間」と書かれた看板があるのを見て、改めて津波の恐ろしさを感じた子ども達。

「6年半近くたったのにまだ完璧には整っていなかったのも、被害の大きさが今更ながら分かりました。」



【鯨と海の科学館】

大きな被害を受けた当時の様子を職員の方から説明していただきました。新たな展示品を加え2週間前に再オープンした科学館からは、復興にかける人々の思いが伝わってきます。



【ボランティア活動】

プランターに植える花の世話をしたり、科学館周囲の草取りを行ったりしました。子ども達が芽出を育てたエゾタンポポのプランター3個も贈呈しました。



【仮設住宅訪問】

翌日の交流会の呼びかけのため、チラシを持って仮設住宅を訪問しました。去年は30世帯近くの方がお住まいでしたが、復興住宅等への引っ越しが進み、喜ばしいことではありますが、4世帯にしかチラシを配布することができませんでした。



【岩手県立山田病院の平泉副院長先生】

大館市出身で、長く地域医療に携わっている平泉宣先生のお話を聞きました。大震災には直接触れず、惑星としての地球、その地質、歴史、そして災害など子ども達にも分かりやすく話していただきました。

NHKで特集が組まれるほど震災後の地域医療を支えてきた先生の活躍と人柄に、大変感動した様子の子も達でした。講話の終わりには、先生が医師を目指すきっかけとなった書籍をいただきました。

7月28日（金） 交流2日目



【エゾタンポポのプレゼント】

近くの里山に絶滅状態のエゾタンポポがあることを知り、エゾタンポポの群生地を生み出そうと始まったプロジェクトについて説明しました。

その後、子ども達が育てたエゾタンポポのプランターと種をプレゼントしました。

長木小児童が制作した「また会えたね～エゾタンポポの小さな物語～」の読み聞かせをしました。

絵本作家の指導を受けて、長木小の児童が文や絵をかいたもので、いろいろな場面で活躍しています。



【きりたんぼ鍋づくり】

食材は、すべて大館から持ち込み、ボランティアの田中京子先生とコーディネーターの佐藤和広先生の指導のもと、きりたんぼ鍋づくりに取り組みました。

「たくさんの方が、おいしい！と何度も言ってくれたし、おかわりをする人が大勢いたのでうれしかったです。」



【長木鳳凰太鼓の演奏】

伝統の鳳凰太鼓を披露しました。最後は、船越小学校や放課後子ども教室の子ども達と一緒に太鼓をたたいて交流を深めました。

「おしゃべりをしていた人たちが、太鼓の音を聞いたとたんに静かになって、真剣に演奏を聴いてくれました。」